

〔 名前 〕 高 田 昭 夫

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 特別支援教育総合演習  
特別支援教育総論  
知的障害教育論Ⅰ  
知的障害教育論Ⅱ  
知的障害者の心理・生理・病理  
重複障害者等の心理・生理・病理 他

〔 専門分野 〕 特別支援教育

〔 学外活動 〕 日本特殊教育学会  
大阪府立支援学校 学校協議会 協議会委員長  
大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会選定委員  
日本ヘレンケラー財団 理事  
大阪知的障がい者スポーツ協会 理事  
トミオカ児童発達・放課後等デイサービスアドバイザー

他、多数

〔 主な教育・研究業績 〕

令和4年度全国保育士養成セミナー セミナー発表

「こどもたちへ繋ぐ自然と文化、そして命」

一般社団法人 全国保育士養成協議会

テーマ：保育現場における音楽プログラムの実態

—コロナ後の保育を見据えた実践的な指導プログラムの考案について—

森 麻希子（四條畷学園短期大学）・合田 誠（同）・長谷 秀揮（同）

山田 秀江（同）・金川 朋子（同）・木村 美佳（同）・千田 耕太郎（同）

高田 昭夫（大阪総合保育大学）・長谷 範子（花園大学）

（学術論文・教育実践記録等）

子どもの主体性と今後の特別支援教育の在り方についての一考察

令和4年3月 大阪総合保育大学児童保育論集第1号

特別支援教育の現状を踏まえ、筆者らが「子どもの主体性」を大切にして行ってきた特別支援学校での教育実践と小学校及び中学校の通常学級に在籍する児童生徒の教育相談の分析により、今後の特別支援教育の在り方について最も重要視すべきことについて考察した。

### **障害のある子どもの子育ての支援についての一考察**

**平成 24 年 12 月 子ども発達総合研究所 2012 実践報告集**

障害のある人の社会的自立に向けて、子育て支援における課題を明らかにすることを目的とし、社会的な問題行動を抱える女子中学生及び特別支援学校で不登校の男子中学生に行った教育相談を自我発達と主体性の観点から分析し、自立生活の実現における課題と子育て支援のあり方について考察した。

### **グループホームの活動 (1) 障害のある特別支援学校卒業生の社会的自立についての一考察 平成 26 年 12 月 子ども発達総合研究所 2014 実践報告集**

特別支援学校卒業生の社会的自立の可能性と課題を明らかにすることを目的とし、特別支援学校卒業生を中心としたグループホームの余暇支援に特別支援学校 1 種免許取得をめざす数名の大学生がかかわった記録を社会的自立の観点から分析し、自立生活の支援の在り方と特別支援学校教員養成の在り方について考察した

### **グループホームの活動 (2) 障害のある特別支援学校卒業生の社会的自立についての一考察 平成 27 年 12 月 子ども発達総合研究所 2015 実践報告集**

特別支援学校卒業生の社会的自立の可能性と課題を明らかにすることを目的とし、特別支援学校卒業生を中心としたグループホームの日常生活に特別支援学校 1 種免許取得をめざす数名の大学生がかかわった記録を社会的自立の観点から分析し、自立生活の支援の在り方と特別支援学校教員養成の在り方について考察した。

### **発達障害児の自己有用感を育む課外活動についての一考察**

**平成 29 年 12 月 子ども発達総合研究所 2017 実践報告集**

小学校中学年の発達障害男児の子どもの年齢相応の成長発達について行った教育相談の記録を自我発達の観点から分析し、自己有用感を育む生活の在り方と子育ての在り方について考察した。

### **農業体験活動「夢農場ミラクル」の軌跡 共著 平成 21 年 12 月 大阪教育大学障害児教育研究紀要、32, pp, 135-148**

守屋 (2009) が提唱しているライフシェアリング活動の一環として、大阪教育大学附属特別支援学校が開始した週末の農業体験活動「夢農場ミラクル」について報告・検討したものである。この農業体験活動は「生きる力」の育成を目指した余暇支援活動であり、週末に在校生も卒業生も家族連れで大学の学生たちと農業体験を楽しむことができる。

本論文ではこれまでの活動の経過を報告し、その意義を自我発達やキャリア教育等の観点から考察してみた。

**農業体験活動「夢農場ミラクル」の軌跡Ⅱ 共著 平成22年12月 大阪教育大学障害児教育研究紀要、33, pp, 73-88.**

守屋（2009）が提唱しているライフシェアリング活動の一環として、大阪教育大学附属特別支援学校が開始した週末の農業体験活動「夢農場ミラクル」について報告・検討したものである。この農業体験活動は「生きる力」の育成を目指した余暇支援活動であり、週末に在校生も卒業生も家族連れで大学の学生たちと農業体験を楽しむことができる。本論文では、2年目の活動の経過の中から、生徒と保護者の変化を取り上げ、自我発達やキャリア教育等の観点から考察してみた。

**自閉症教育の歴史 単著 平成22年11月 発達人間学研究 12 巻 1 号 pp. 17-24**

特別支援学校在籍者の約3割が自閉症であると言われているが、これらの子どもたちは自閉症ではなく知的障害としての教育的対応をされているという現実がある。自閉症の子どもの多さと共に、知的障害とは異なる自閉症の障害特性及び自閉症の子どもの持つ困難性から、自閉症に対応した効果的な指導内容と指導方法について具体的に検討する必要がある。こうした状況をふまえ、知的障害を伴う自閉症を中心に、知的障害と自閉症の障害の違いや障害特性に応じた対応の在り方を自我発達の観点から考察した。

**農業体験活動を導入した特別支援教育の教員養成の試み（1）共著 平成25年11月 発達人間学研究 14 巻 1 号 pp. 13-23**

大阪総合保育大学（以下、本学と記す）では、保育士・幼稚園教員・小学校教員・特別支援教育教員の免許を取得することができる。本学学生の中で、特別支援教育教員免許取得を希望するものの中から学力における上位50名が本課程に進むことができる。特別支援教育教員免許状取得のための授業の一つに、河内長野「はぐくみ農場」で農業体験活動を行う「特別支援教育総合演習」がある。本活動は、障害のある本人とその家族と農業を共に体験することによって、教員の資質に関わって重要なことを学ぶことができる場の一つである。

本論文では、急激な社会の変化に伴い、現在の教育における課題に向き合い、教員になるための重要となる資質について考える上で、農業体験活動の意義を検証し、教員を目指す学生に必要な資質（教員養成における重要な観点）についての一考察となると考えた。